

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」(14)

平成 25 年 11 月 28 日

村山 章

知人から聞いた感動的なお話をさせていただきます。ある女性は一人目の出産で、陣痛が始まってから生まれるまで 35 時間もかかったそうです。後日、整体師に診てもらったところ骨盤がずれていて、「これでよく出産ができましたね」と言われたそうです。

このように、一人目の出産で大変な思いをしていますから、二人目はラクに出産できるように助産師さんとも相談をして、水中出産を予定していたそうです。そして毎日 30 分は歩いて出産準備をしていたそうです。さて、いよいよ予定日が迫ってきたある朝、4 時頃に陣痛が始まり、夫が運転をして、まず一人目の子を母親に預けてから助産院に行く予定で出発しました。ところが生まれそうな予感がするというので一人目の子と母親も一緒に車に乗り、揃って助産院に向かいました。しかし、陣痛はいよいよ激しくなり助産院につく前に生まれそうになったため、車を道端に止めると、母親が「そのタオルを貸して」と言って夫が首にまいていたタオルを取ると、大きな産声をあげて生まれてきた赤ちゃんを両手の手の平で受けとめ、手の平に赤ちゃんを乗せたまま助産院に急いだそうです。何とか助産院に着くと、助産師にへその尾を切ってもらい、母子ともに無事を確認しやっとな笑顔が生まれたそうです。

人体とは何と素晴らしくできているのでしょうか。妊娠中の十月十日の期間に、地球上に生命が誕生してから現在までの約 30 億年の進化の歴史が凝縮されているそうです。人間の知能は大きく発達しましたが、知能の高さと人間の幸福は果たして結びつくのでしょうか。知能とは全く関係なく受精卵は成長を繰り返し、胎児となり自然の神秘的な力でこの世に生まれて来ます。この大自然の成り立ち、温もりにこそ、人間の本当の幸福があるのではないのでしょうか。祖母の手の平に生まれ出たこの赤ちゃんは今、あまりの鳴き声の大きさに周りを困らせているそうです。これ以上の幸福はないですね。